



鬼北町で遠征合宿

城西国際大学軟式野球部の部員10名が8月5日から12日まで、鬼北町で合宿を行いました。

この野球部は観光学部の学生で構成されており、今年から設立された部活動だそうです。

5日に行われたオープニングセレモニーでは、植松キャプテンが、「野球以外にも様々な経験をしたい」と、意気込みを述べ、それぞれの特産品の交換を行いました。

滞在していた期間のほとんどの日が天候に恵まれず、グラウンドで練習をする機会が少なかったのですが、いざグラウンドに出ると、伸び伸びとそして思い切りプレーしていました。

また、川上り駅伝、道の駅めぐり、社会福祉協議会での交流など、野球以外にも様々な活動を行い、特に川上り駅伝では、選手だけでなく、保護者や指導者、学校関係者らが、沿道から大声で応援するなど、全員が鬼北町を満喫していました。

最終日、植松キャプテンは、「自然が豊かでいいところだと感じた。普段は10人でやっているが、キャンプには高校生なども練習に参加してくれて、久々に大勢で、しかも広いグラウンドだったので、普段できないような練習もでき、本当に楽しかった。自分たちはほとんど愛媛出身のメンバー。鬼北町でたくさんの人たちにお世話になり、「感謝」という気持ちを改めて思い出させてもらった。来年、訪れる時は、優勝旗をもって訪問します」と力強く語っていました。



過去最高の来場者でにぎわう

町内外から、様々な作品を展出する成川溪谷グリーンマーケットが8月21日と22日、成川溪谷キャンプ場で行われました。

厳しい暑さの中行われたこの日は、夏休みということもあり約1,500人の家族連れなどで賑わいました。

また、今回は出店数も多く、様々な種類の商品が会場を飾り、しゃもじ作成や釘アートなどの体験コーナーもあり、大人から子どもまで幅広く体験でき、ショッピングを楽しみつつ真夏の涼を満喫しました。